



学校だより

横浜市立相武山小学校

1月号

令和5年1月12日

～ まちのみんな ひとつになあれ ～



「先人の教え」

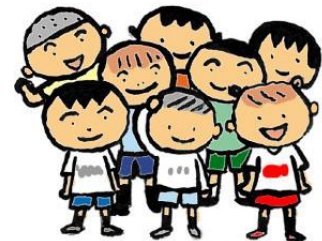
学校長 後藤 直樹

いよいよ寒さも本番とはなりましたが、比較的穏やかな天候に恵まれた年末年始でした。日差しの温かさをこれほど有難く感じる時期はありません。コロナ禍で3度目の新年を迎え、そろそろこのマスク生活や黙食の日々が終わることを祈願しました。

さて、様々な年中行事などの由来やその成り立ちを耳にするたびに「なるほど」と、先人たちの理にかなった教えに諭されることが多々あるものです。七草粥を口にしながらふと、そんなことを思いました。その中の一つ、「インディアンの教え」を紹介させていただきます。すでにご存じの方も多いかと思いますが、短い言葉の中に、学校という子どもたちの成長に深くかかわる場所で大切にしていきたいことが、集約されているように思います。

「インディアンの教え」

- ・批判ばかり受けて育った子は 非難ばかりします。
- ・敵意に満ちた中で育った子は 誰とでも戦います。
- ・ひやかしを受けて育った子は はにかみやになります。
- ・ねたみを受けて育った子は いつも悪いことをしているような気持ちになります。
- ・心が寛大な人の中で育った子は がまん強くなります。
- ・励ましを受けて育った子は 自信をもちます。
- ・ほめられる中で育った子は いつも感謝することを知ります。
- ・公明正大な中で育った子は 正義心をもちます。
- ・思いやりのある中で育った子は 信頼をもちます。
- ・人にほめられる中で育った子は 自分を大事にします。
- ・仲間の愛の中で育った子は 世界の愛を見つけます。



相武山小学校の子どもたちと日々接していると、人なつこさやその表情、仕草に、「思いやりのある中で育った子」「家族の愛情の中で育った子」たちだなと感じることがよくあります。また、先日の地域フェスティバルの様子からも、家庭に限らず「まち全体」で子どもたちを大切に育てているという印象をもっています。新年早々には、大谷福寿会の柏倉さんから、子どもたちに「春の七草」の寄せ植えのプレゼントがありました。

この令和5年、学校としても様々な場面で子どもたちを励ましながら、自信をもって何にでも挑戦していこうとする活力ある子どもたちを育てていきたいと考えています。本年も保護者・地域の皆様のご理解とご協力をあらためてお願いいたします。